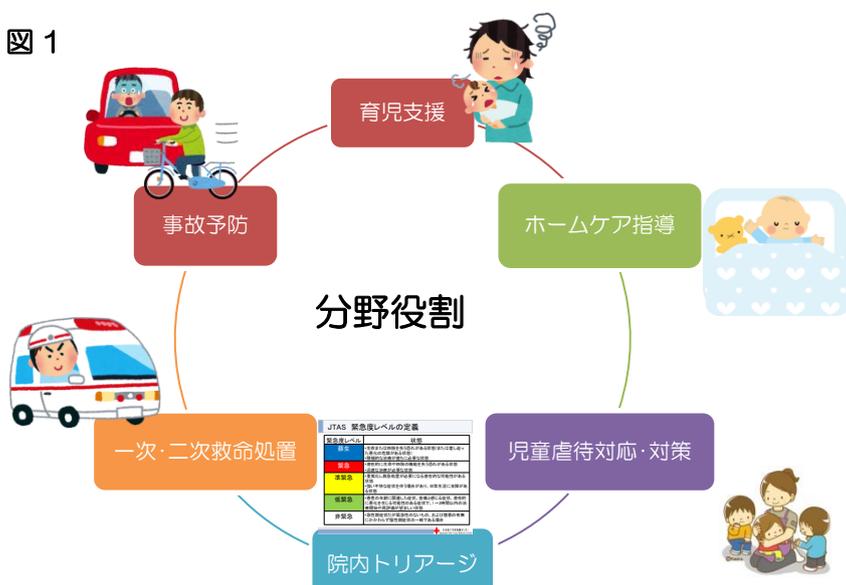


図 1



□ **分野役割**：育児支援、ホームケア指導、児童虐待対応・対策、院内トリアージ、一次・二次・三次救命処置、事故予防(図 1)

子どもは、成長発達段階にあり、自らの症状や苦痛、様々な感情や思いを言葉にして表出することが難しい状態にあるといえます。そのため行われている医療が、子ども主体の医療であるかを見極め、子どもの権利を擁護し、安全・安楽な医療が提供されるよう、家族意思決定支援も含め、豊富な知識と高度な看護技術を駆使し、小児看護を実践することが小児救急看護認定看護師には求められます。

小児救急看護認定看護師

図 2



□ **多職種連携** (図 2)

子どもと家族との関わりにおいて、少子化や核家族化等の時代背景から、子どもと家族を取り巻く環境や社会情勢について理解する必要があります。

小児救急看護認定看護師は、家族が抱える様々な不安や心配ごとに対して、専門職としての見解をもちながら多職種と連携し、家族への意思決定支援も含め、専門的な関わりをチーム医療の一員として実践する必要があります。

□ **院内活動**

院内研修企画・運営(小児看護基礎 1、小児看護基礎 2、小児フィジカルアセスメント「呼吸器系・循環器系、脳神経系・消化器系」、BLS)、小児看護関連部署別研修企画・運営(急変予測と対応、院内トリアージ)



□ **院外活動**

AHA/PALS プロバイダーコース instructor、日本救急看護学会/トリアージナース育成研修会 instructor、全国赤十字病院 JTAS コース instructor、厚生労働省企画救急医療財団委託「看護師救急業務実地修練」instructor、日本看護協会看護研修学校認定看護師教育課程小児救急看護学科臨地実習指導者、学会発表

□ **醍醐味！！**

私は以前、子どものために何ができるのかという悩みを抱えていました。しかし、小児救急看護認定看護師となり、多くの出会いと学びによって、悩みが、子どものためにどうするべきかという考え方に変わり、子どもと家族との向き合い方が具体的になったことで、やりがいにつながりました。同時に自身の存在意義についても見つめ直すことができました。子どもの看護に対して悩みをお持ちの方は是非、小児救急看護認定看護師を目指してほしいです。